

一般パスカル三角形の正方行列化について

上智大・理工 岩堀長慶 (Nagayoshi Iwahori)

§ 1. 序

二項係数  $nC_r = \binom{n}{r} = n! / r!(n-r)!$  達を「山の形」に並べた数表 (パスカル三角形)

$$\begin{array}{cccc}
 & & & 1 & & & \\
 & & & & 1 & & \\
 & & 1 & & 2 & & 1 & \\
 & 1 & & 3 & & 3 & & 1 & \\
 \dots & & & & & & & & \dots
 \end{array}$$

は高校生にもなじみ深いものである。これを二重数列

$$\begin{array}{cccc}
 & & & a_{00} & & & \\
 & & & a_{10} & a_{01} & & \\
 & & a_{20} & a_{11} & a_{02} & & \\
 a_{30} & a_{21} & a_{12} & a_{03} & & & \\
 \dots & & & & & & \dots
 \end{array}$$

と見做すと

$$\begin{cases}
 \text{初期条件 } a_{0j} = a_{j0} = 1 \quad (j=0, 1, 2, \dots) \text{ 及び} \\
 \text{漸化式 } a_{ij} = a_{i,j-1} + a_{i-1,j} \quad (i, j=1, 2, \dots)
 \end{cases}$$

と定義された二重数列  $\{a_{ij} \mid i, j=0, 1, 2, \dots\}$  ということになる。以下の記述の都合のために、二重数列  $\{a_{ij}\}$  の書き方を二通り設定しておく。一つは下半三角行列の形の  $B$  であり、もう一つは正方行列の形の  $\tilde{B}$  である：

$$B = \begin{pmatrix} b_{00} & & & 0 \\ b_{10} & b_{01} & & \\ b_{20} & b_{11} & b_{02} & \\ b_{30} & b_{21} & b_{12} & b_{03} \\ \dots & \dots & \dots & \dots \end{pmatrix}$$

$$\tilde{B} = \begin{pmatrix} b_{00} & b_{01} & b_{02} & \dots \\ b_{10} & b_{11} & b_{12} & \dots \\ b_{20} & b_{21} & b_{22} & \dots \\ \dots & \dots & \dots & \dots \end{pmatrix}$$

そこでパスカル三角形の初期条件と漸化式を次の形で一般化する。いま4つの数列

$$\alpha = (\alpha_0, \alpha_1, \alpha_2, \dots), \quad \beta = (\beta_1, \beta_2, \dots)$$

$$p = (p_1, p_2, \dots), \quad q = (q_1, q_2, \dots)$$

に対して二重数列  $\{b_{ij}\}$  を

$$\text{初期条件 } b_{0j} = \alpha_j \quad (j=0, 1, \dots), \quad b_{j0} = \beta_j \quad (j=1, 2, \dots)$$

$$\text{漸化式 } b_{ij} = p_i b_{i,j-1} + q_j b_{i-1,j} \quad (i, j=1, 2, \dots)$$

で定める。そして  $n=0, 1, 2, \dots$  に対して  $n+1$  次正方行列

$$\tilde{B}_n = \tilde{B}_n(\alpha, \beta; p, q) \quad \text{と} \quad B_n = B_n(\alpha, \beta; p, q) \quad \text{とを}$$

$$\tilde{B}_n = \begin{pmatrix} b_{00} & b_{01} & \dots & b_{0n} \\ b_{10} & b_{11} & \dots & b_{1n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ b_{n0} & b_{n1} & \dots & b_{nn} \end{pmatrix}, \quad B_n = \begin{pmatrix} b_{00} & & & 0 \\ b_{10} & b_{01} & & \\ b_{20} & b_{11} & b_{02} & \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ b_{n0} & b_{n1} & \dots & b_{0n} \end{pmatrix}$$

と定義する。

すると様々な問題が自然発生する。例えば  $\det \hat{B}_n$  と  $\alpha, \beta, p, q$  との関係は?  $\hat{B}_n$  と  $B_n$  向うの関係は? もしくは  $\prod_{j=0}^n (\det \hat{B}_j) \neq 0$  ならば, Bruhat 分解の特別の場合なので, 上半三角形行列系  $\hat{B}_j$  ( $0 \leq j \leq n$ ) が存在して  $\hat{B}_n = B_n \hat{B}_n$  の形に書ける。このとき  $\hat{B}_n$  の形は? などなどである。更に視点を少し広げて, 漸化式の部分を

$$b_{ij} = p_i b_{i,j-1} + q_j b_{i-1,j} + c_{ij}$$

( $\{c_{ij}\}$  は与えられた二重数列) と一般化することも考えられる。しかしこれは可成難しくて一般論がわからない。特別な形 ( $p_i, q_j$  は皆  $= 1$ ,  $c_{ij}$  は定数) の实例に後で觸れる。

## §2. 或る特別な場合 ( $GL_n$ の表現論的解釈の例)

初期条件を  $\alpha = (1, 1, \dots)$ ,  $\beta = (1, 1, \dots)$  とし, 漸化式の  $p$  と  $q$  を  $p = (1, 1, \dots)$ ,  $q = (q_1, q_2, q_3, \dots)$  の形とする。 $q$  は任意の数列)。この時  $\hat{B}_n$  の行列成分が面白い形をもつことが分る。たとえば

$$\hat{B}_2 = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1+q_1 & 1+q_1+q_2 \\ 1 & 1+q_1+q_1^2 & 1+q_1+q_2+q_1^2+q_1q_2+q_2^2 \end{pmatrix}$$

である。そこで一般線型群  $GL(m, \mathbb{C})$  の大次対稱表現  $\rho_{m,k}$ , 亦なわち  $m$  個の変数  $x_1, \dots, x_m$  の大次の齊次多項式全

体のなす空間  $S_k(x_1, \dots, x_m)$  を表現空間とする表現の指標を  $\chi_{m,k}$  とする。  $\chi_{m,k}$  が対角行列  $h = \text{diag.}(q_1, q_2, \dots, q_m)$  で与える値は

$$\chi_{m,k}(h) = \chi_{m,k}(q_1, \dots, q_m) = \sum_{1 \leq j_1 < \dots < j_k \leq m} q_{j_1} q_{j_2} \dots q_{j_k}$$

である。以下  $\chi_{m,k}(q_1, \dots, q_m)$  を  $\chi_{m,k}$  と書く。  $\chi_{m,0} = 1$  である。また  $\chi_{0,k} = 1$  とおく。すると  $\tilde{B}_n$  の成分  $b_{ij}$  を表わす式は

$$(2.1) \quad \begin{cases} b_{ij} = \chi_{j,0} + \chi_{j,1} + \dots + \chi_{j,i} & (j=1, 2, \dots) \\ b_{i0} = 1 & (i=0, 1, 2, \dots) \end{cases}$$

となることを示せる。(証明は帰納法を用いて簡単にできる。 $\tilde{B}_2, \tilde{B}_3$  位の実験で (2.1) が見えてくる。) 次に分解  $\tilde{B}_n = B_n \hat{B}_n$  を与える行列  $B_n, \hat{B}_n$  の具体形も分る。分かり易くするため  $n=4$  で書くと

$$(2.2) \quad B_n = \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ 0 & q_1 & & & \\ 0 & q_1^2 & q_1 & & \\ 0 & q_1^3 & q_1^2 & q_1 & \\ 0 & & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ 0 & 1 & & & \\ 0 & 0 & 1 & & \\ 0 & 0 & q_2 & 1 & \\ 0 & 0 & q_2^2 & q_2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ 0 & 1 & & & \\ 0 & 0 & 1 & & \\ 0 & 0 & 0 & 1 & \\ 0 & 0 & 0 & q_3 & 1 \end{pmatrix}$$

$$(2.3) \quad \hat{B}_n = \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & q_4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & q_4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & q_3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & 1 \end{pmatrix}^x$$

$$\times \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & 1 & & \\ & & q_2 & \\ & & & q_3 & \\ & & & & q_4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & 1 & & \\ & & 1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & q_1 & & \\ & & q_2 & \\ & & & q_3 & \\ & & & & q_4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & 1 & & \\ & & 1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix}$$

となる。これを用いると  $\det \tilde{B}_n = (\det B_n) \cdot (\det \hat{B}_n) = q_1 q_2^2 \cdots q_n^n$  が得られる:

$$(2.4) \quad \det \tilde{B}_n = \det \hat{B}_n = q_1 q_2^2 q_3^3 \cdots q_n^n$$

① 上智大数学科1年の杉谷哲也君も別の方法で(2.4)を示した。

### § 3. 実例若干

[例1]  $q_1 = q_2 = \cdots = 1$  の時はパスカル三角形の行列  $\tilde{B}_n$  であり、 $\hat{B}_n = {}^t B_n$  ( $B_n$  の転置行列) となる。  $\det \hat{B}_n = 1$  である。 $B_n^{-1}$  の形は (例:  $n=3$ )

$$(3.1) \quad B_n^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & & & \\ -1 & 1 & & \\ 1 & -2 & 1 & \\ -1 & 3 & -3 & 1 \end{pmatrix} \quad (B_n \text{ の } (i, j) \text{ 成分の } (-1)^{i+j} \text{ 倍} \\ \times B_n^{-1} \text{ の } (i, j) \text{ 成分})$$

となるから、 $\tilde{B}_n$  に関し次のような事実が簡単にわかる:  
 $\tilde{B}_n^{-1}$  と  $\hat{B}_n$  とは相似行列である。 $n$  が偶数 ( $> 0$ ) ならば、 $1$  は  $\tilde{B}_n$  の固有値である。 $\tilde{B}_n$  の固有方程式を  $f_n(x) = x^{n+1} - \alpha_1 x^n + \cdots + (-1)^{n+1} \alpha_{n+1}$  とおくと、 $\alpha_0 = 1$  とし

$$(3.2) \quad \alpha_j = (-1)^{n+1-j} \alpha_{n+1-j} \quad (0 \leq j \leq n+1)$$

となる。すなわち  $\tilde{B}_n$  の  $j$  次首座小行列式の総和  $\alpha_j$  と  $(n+1-j)$  次首座小行列式の総和  $\alpha_{n+1-j}$  とは符号を除

いて一致する。

[例 2] 変数  $q$  を用いて  $q_j = q^j$  ( $j = 1, 2, \dots$ ) とした時。

ガウスの  $q$ -項係数と呼ばれる量 ( $q$  の多項式)

$$\begin{bmatrix} i+j \\ i \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} i+j \\ j \end{bmatrix} = \prod_{\nu=1}^{i+j} (q^\nu - 1) / \prod_{\alpha=1}^i (q^\alpha - 1) \prod_{\beta=1}^j (q^\beta - 1)$$

を用いて  $b_{ij} = \begin{bmatrix} i+j \\ i \end{bmatrix}$  と書ける。(2.2), (2.3) から

$$(3.3) \quad \hat{B}_n = \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & q^{1^2} & & \\ & & q^{2^2} & \\ & & & \ddots & \\ & & & & q^{n^2} \end{pmatrix} {}^t B_n \quad \therefore \tilde{B}_n = B_n \begin{pmatrix} 1 & & & \\ & q & & \\ & & q^2 & \\ & & & \ddots & \\ & & & & q^{n^2} \end{pmatrix} {}^t B_n$$

となり,  $\tilde{B}_n$  は対称行列で,  $\det \tilde{B}_n = q^{1^2+2^2+\dots+n^2}$  が得られる。 $q=1$  とおくと, [例 1] が生ずる。 $B_n^{-1} = C_n^\Delta = (c_{ij})$  とおくと, (3.1) の  $q$ -version の形で成分  $c_{ij}$  の式が出る。

$$(3.4) \quad c_{ij} = (-1)^{i+j} q^{1+2+\dots+(i-j-1)} \begin{bmatrix} i \\ j \end{bmatrix}$$

[例 3]  $q_j = j+1$  ( $j = 1, 2, \dots$ ) とした時。

第 2 種 Stirling 数 という名の量  $S(m, k)$  が  $\tilde{B}_n$  の成分  $b_{ij}$  として登場する。 $(S(m, k)$  は  $\{1, 2, \dots, m\}$  を  $k$  個の部分集合に直和分割する仕方の総数。)  $b_{ij} = S(i+j, j)$  である。公式 (2.3) を用いて

$$(3.5) \quad \det \tilde{B}_n = 2 \cdot 3^2 \cdot 4^3 \cdots n^{n-1}$$

が得られる。この式は R. Stanley 論文: 「パン屋の 1 ガウス予想」([1] 参照) 中に登場する或る未解決予想の "行列式型のいいみえ" となっているのが興味深い。未解決予想とは

↑  $n$  次正方行列  $A = (a_{ij})$  で、 $a_{ij}$  は皆 0 か 1 か -1 で、 $A$  の各行、各列の和はすべて  $= 1$  となり、各行、各列では 1 と -1 とが出現するときは、途中の 0 を無視すれば、1 と -1 とは隣接している」といふ行列を  $n$  次交代符号行列と呼ぶ。その総数を  $A_n$  とおく。例えは  $A_1 = 1$ ,  $A_2 = 2$ ,  $A_3 = 7$  (置換行列が  $3! = 6$  個, もう一つは  $\begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix} \in A_3$ ) である。

$$(3.6) \quad A_n = \frac{1! 4! 7! \cdots (3n-2)!}{n! (n+1)! \cdots (2n-1)!}$$

が予想式である。  $A_n$  の分子、分母が  $\begin{pmatrix} 2.4 \\ \blacksquare \end{pmatrix}$  の形 (3.5) に近い) となり、行列式的解釈が期待される:

$$\begin{cases} \tilde{Q}_j = (3n-3j+1)(3n-3j)(3n-3j-1) & (1 \leq j \leq n-1) \\ Q_j = 2n-j & (1 \leq j \leq n-1), \quad Q_n = n! \end{cases}$$

とあくと

$$(3.7) \quad \begin{cases} A_n \text{ の分子} = \tilde{Q}_1 \tilde{Q}_2^2 \tilde{Q}_3^3 \cdots \tilde{Q}_{n-1}^{n-1} \\ \text{ " 分母} = Q_1 Q_2^2 Q_3^3 \cdots Q_{n-1}^{n-1} Q_n^n \end{cases}$$

となる。対応する  $\tilde{B}_n, B_n$  達の意味づけは果して何か?

#### §4. 付記若干

本来のパスカル三角形 (例 1) から上部と左部にあつた成分を削り取ると、初期条件  $\alpha, \beta$  のみが変わり、漸化式  $p, q$  は変わらない。例えは始の左行と左列を削り取つて作った  $n+1$  次正方行列

$$A_{k,n} = \begin{pmatrix} \binom{2k}{k} & \binom{2k+1}{k} & \cdots & \binom{2k+n}{k} \\ \binom{2k+1}{k+1} & \binom{2k+2}{k+1} & \cdots & \binom{2k+n+1}{k+1} \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \binom{2k+n}{k+n} & \binom{2k+n+1}{k+n} & \cdots & \binom{2k+2n}{k+n} \end{pmatrix}$$

の行列式の値はどう考えれば出て来るか? Bruhat分解の考  
之方が有効である:  $A_{k,n} = D^{-1}XYF$  と分解する. 但し

$$D = \begin{pmatrix} d_0 & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & d_n \end{pmatrix}, \quad F = \begin{pmatrix} f_0 & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & f_n \end{pmatrix}, \quad \begin{aligned} d_j &= \binom{k+j}{k}, \\ f_j &= \binom{2k+j}{k} \end{aligned}$$

$$X = \begin{pmatrix} x_{00} & & & 0 \\ x_{10} & x_{11} & & \\ \cdots & \cdots & \cdots & \\ x_{n0} & x_{n1} & \cdots & x_{nn} \end{pmatrix}, \quad Y = \begin{pmatrix} y_{00} & y_{01} & \cdots & y_{0n} \\ & y_{11} & \cdots & y_{1n} \\ & & \ddots & \vdots \\ 0 & & & y_{nn} \end{pmatrix}$$

$$x_{ij} = \binom{2k+i}{-j+i}, \quad y_{ij} = \binom{j}{i}$$

である。  $\det X = \det Y = 1$  なので

$$(4.1) \quad \det A_{k,n} = \prod_{j=0}^n \binom{2k+j}{k} / \prod_{j=0}^n \binom{k+j}{k}$$

を得る。  $k$  を固定して  $\det A_{k,n}$  を  $n$  の関数と考えると (4.1)  
から, これは  $n$  の  $k^2$  次 の多項式と なることがわかる。

上と同様に  $b_{ij} = \binom{i+j}{i} = (\text{ガウスの二項係数})$  とした行  
列  $\tilde{B}_n$  から例えば第1行と第1列を削りとりた行列の行  
列式も出来る。いま



$$G_n = \begin{pmatrix} \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix} & \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \end{bmatrix} & \cdots & \begin{bmatrix} n \\ 1 \end{bmatrix} \\ \begin{bmatrix} 3 \\ 2 \end{bmatrix} & \begin{bmatrix} 4 \\ 2 \end{bmatrix} & \cdots & \begin{bmatrix} n+1 \\ 2 \end{bmatrix} \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \begin{bmatrix} n \\ n-1 \end{bmatrix} & \begin{bmatrix} n+1 \\ n-1 \end{bmatrix} & \cdots & \begin{bmatrix} 2n-2 \\ n-1 \end{bmatrix} \end{pmatrix}$$

とあくと,

$$(4.2) \quad \det G_n = q^{2\binom{n-1}{3} + 3\binom{n-1}{2}} (1 + q + q^2 + \cdots + q^{n-1})$$

となる。

\* \* \*

次に (2.2) と一寸異なる視野からパスカル三角形, ガウス三角形の  $\blacksquare$  三角行列表示を眺めて見る。下半三角形行列の形のパスカル三角形

$$(4.3) \quad C_n = \begin{pmatrix} 1 & & & 0 \\ 1 & 1 & & \\ 1 & 2 & 1 & \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \binom{n}{0} & \binom{n}{1} & \cdots & \binom{n}{n} \end{pmatrix}$$

は  $\log$  をとると, 中零行列

$$(4.4) \quad N_n = \begin{pmatrix} 0 & & & 0 \\ 1 & 0 & & \\ 2 & 0 & \cdots & \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & n_0 \end{pmatrix}$$

となる。従って

$$(4.5) \quad C_n = \exp(N_n) = I + N_n + \frac{1}{2!} N_n^2 + \cdots$$

となる。ついでに, 此の式から  $C_n$  の左乗 (右は整数) の形が直ぐ出る:

$$(4.6) \quad \left( \begin{array}{cccc} 1 & & & \\ | & & & \\ 1 & 1 & & 0 \\ | & 2 & 1 & \\ \vdots & \ddots & \ddots & \\ \binom{n}{0} & \binom{n}{1} & \cdots & \binom{n}{n} \end{array} \right)^k = \left( \begin{array}{cccc} 1 & & & \\ k & 1 & & 0 \\ k^2 & 2k & 1 & \\ k^3 & 3k^2 & 3k & 1 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ k^n & \binom{n}{1}k^{n-1} & \cdots & 1 \end{array} \right)$$

しかしガウス三角形の時は  $\log$  をとつても意味がつかない。そこで  $\exp, \log$  の  $q$ -version を試みると、これがうまく行く。  $\exp$  の  $q$ -version を  $\exp]_q$  と書き、次のように定義する：正定行列  $M$  に対し

$$(4.7) \quad \exp]_q(M) = I + M + \frac{M^2}{1+q} + \frac{M^3}{(1+q)(1+q+q^2)} + \cdots$$

$M$  が中零なら右辺は有限和である。そこで上の  $N_n$  の  $q$ -version として

$$(4.8) \quad M_q = \left( \begin{array}{cccc} 0 & & & \\ 1 & 0 & & \\ & 1+q & 0 & \\ & & 1+q+q^2 & 0 \\ 0 & & \ddots & \ddots \\ & & & 1+\cdots+q^{n-1} & 0 \end{array} \right)$$

を作ると

$$(4.9) \quad \left( \begin{array}{cccc} [0] & & & \\ [1] & [1] & & \\ [2] & [2] & [2] & \\ \vdots & \vdots & \vdots & \\ [n] & [n] & \cdots & [n] \end{array} \right) = \exp]_q(M_q)$$

という公式が成り立つことがわかる。しかしこの意味づけ

はまだうまくいえない状態である。

\* \* \*

序の終で述べた実例を述べる。  $\alpha = (x, x+1, x+2, \dots)$

$\beta = (x+1, x+2, \dots)$ ,  $p = (1, 1, \dots)$ ,  $q = (1, 1, \dots)$

として  $\tilde{B}_n = (b_{ij})$  を  $b_{i,j} = b_{i-1,j} + b_{i,j-1} + k$

( $k$  は与えられた定数) で定める。  $\det \tilde{B}_n = F_n(x)$  は " の  
ような多項式か?

上式から,  $\tilde{B}_n$  の左から (4.3) の  $C_n$  の逆行列  $C_n^{-1}$  を掛く  
、  $\tilde{B}_n$  の右から  ${}^t C_n$  の逆行列 を掛けることにより — 即  
ち  $\tilde{B}_n$  の各行から前の行を引算し, また各列から前の列を引算  
する — という操作を繰返して, 次式を得る。

$$(4.10) \quad C_n^{-1} \tilde{B}_n {}^t C_n^{-1} = \begin{pmatrix} x & 1 & 0 & 0 & \cdots & 0 \\ 1 & x+k & 1 & 0 & & \vdots \\ 0 & 1 & x+k & 1 & & \vdots \\ \vdots & & \ddots & \ddots & \ddots & \vdots \\ 0 & & 0 & & 1 & x+k \end{pmatrix} = D_n \text{ とする.}$$

よって,  $\tilde{B}_n = C_n D_n {}^t C_n$  となり,  $\det \tilde{B}_n = \det D_n$   
となる。  $f_n(x) = \det D_n$  とおくと,  $D_n$  の形から漸化式

$$\begin{cases} f_n(x) = x f_{n-1}(x) - f_{n-2}(x) \\ \text{初期条件 } f_1(x) = x, f_2(x) = x^2 + kx - 1 \end{cases}$$

が得られる。特に  $k=0$  とすると,  $f_n(x)$  は チェビシエフ  
多項式となり, 根は  $2 \cos \frac{\pi}{n+1} j$  ( $1 \leq j \leq n$ ) となる。こ  
のような考え方は  $p = (1, 1, \dots)$ ,  $q = (1, 1, \dots)$  の時は

いつも有効である。例えば (4.1) に出現した行列  $A_{k,n}$  に対しては  $C_n^{-1} A_{k,n} C_n^{-1}$  を作ると, 「準対角行列」

$$\begin{pmatrix} \xi_k & \xi_{k-1} & \cdots & \xi_0 & 0 & 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \xi_{k-1} & \xi_k & \xi_{k-1} & \cdots & \xi_0 & 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \xi_0 & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \xi_0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \xi_0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \end{pmatrix} \quad \text{となる。}$$

但し,  $\xi_k = \binom{2k}{k}$ ,  $\xi_{k-1} = \binom{2k}{k-1}$ ,  $\cdots$ ,  $\xi_0 = \binom{2k}{0} = 1$  である。

しかし, この形から行列式を算出するのは漸化式が容易に出ないという難点がある。Bruhat 分解の方法が特に強力である。

### [参考文献]

- [1] R.P. Stanley: Enumerative Combinatorics, vol. 1, 1987 (及び SLN. 1234号)
- [2] " : Unimodality and Lie Superalgebras, *Studies in Applied Math.* 72, 1985, 263-281
- [3] " : Unimodal sequences arising from Lie algebras, *Lec. Note in Pure and App. Math.* 57, 1980, 127-136
- [4] " :  $GL(n, \mathbb{C})$  for combinatorialists, *London Math. Soc. Lec. Notes Ser.* #82, 1983, 187-199
- [5] 雨宮-岩塚-小池: On some generalization of B. Kostant's partition function, *Prog. in Math.* 14, 1981 松島記念号
- [6] I.G. Macdonald: *Sym. functions and Hall polynomials*, Oxford.

## [付録]

$1^k + 2^k + \dots + n^k = P_k(n)$  は  $n$  の  $k+1$  次多項式で定数項は 0 とする。そこで  $P_k(n) = b_{k,0} \binom{n}{1} + b_{k,1} \binom{n}{2} + \dots + b_{0,k} \binom{n}{k+1}$

と置く。但し  $b_{0,0} = 1$  とする。すると行列  $\tilde{B} = (b_{rs})$  は

$$\begin{array}{l} 0) \\ 1) \\ 2) \\ 3) \\ 4) \\ \dots \end{array} \begin{pmatrix} \overset{0}{1} & \overset{1}{1} & \overset{2}{2} & \overset{3}{6} & \overset{4}{24} & \dots \\ 1 & 3 & 12 & 60 & 360 & \dots \\ 1 & 7 & 50 & 390 & 3360 & \dots \\ 1 & 15 & 180 & 2100 & \dots & \\ 1 & 31 & 602 & \dots & & \\ \dots & & & & & \end{pmatrix}$$

となる。これは初期条件  $\alpha = (0!, 1!, 2!, 3!, \dots)$ ,  $\beta = (1, 1, \dots)$

漸化式は  $r \geq s$  の時  $b_{r,s} = s \cdot b_{r,s-1} + (s+1) b_{r-1,s}$  である。

$r < s$  の時も  $b_{r,s} = s \cdot b_{r,s-1} + (s+1) b_{r-1,s}$  である。

よって、これは  $\tilde{B}_n$  の条件は満たしている。しかし例えは  $n=4$  とし

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 & 6 & 24 \\ 1 & 3 & 12 & 60 & 360 \\ 1 & 7 & 50 & 390 & 3360 \\ 1 & 15 & 180 & 2100 & \cdot \\ 1 & 31 & 602 & \cdot & \cdot \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 6 & 10 & 15 \\ 1 & 7 & 25 & 65 & 140 \\ 1 & 15 & 90 & 350 & 1050 \\ 1 & 31 & 301 & 1701 & 6951 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 6 \\ 24 \end{pmatrix}$$

がわかる。右辺の第一項は例 3 の Stirling 数の行列であり、右辺第二項は対角成分が  $0!, 1!, 2!, \dots$  である。よって

Stirling 数の公式

$$(*) \quad S(m, k) = \frac{1}{k!} \{ k^m - \binom{m}{1} (k-1)^m + \dots + (-1)^{k-1} \binom{m}{k-1} \cdot 1^m \}$$

から上の  $b_{r,s}$  が得られる。

ついでにもう一つ: 多項式  $b_{k,0} t^k + b_{k,1} t^{k-1} + \dots + b_{0,k}$

は実は  $(t+1)$  で割り切れることが云える。割りつた商を

$$C_{k-1,0} t^k + C_{k-2,1} t^{k-1} + \dots + C_{0,k-1}$$

とあくと、

$$n^k = C_{k-1,0} \binom{n}{1} + C_{k-2,1} \binom{n}{2} + \dots + C_{0,k-1} \binom{n}{k}$$

の成立がわかる。行列  $(C_{ij})$  ( $C_{0,0} = 1$ ) は

$$(C_{ij}) = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 6 & 10 & 15 \\ 1 & 7 & 25 & 65 & 140 \\ 1 & 15 & \cdot & \cdot & \cdot \\ 1 & 31 & \cdot & \cdot & \cdot \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1! \\ 2! \\ 3! \\ \cdot \\ \cdot \end{pmatrix}$$

となり、やはり Stirling 数で書ける。上式は次式と同じである。

$$C_{ij} = S(i+j, j) \cdot j!$$

(★) を行列形で書くとより印象的である:

$$(★★) \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ 1 & 1 & & & \\ 1 & 2 & 1 & & \\ 1 & 3 & 3 & 1 & \\ 1 & 4 & 6 & 4 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ & 1 & 3 & 7 & 15 \\ & & 2 & 12 & 50 \\ & & & 6 & 60 \\ & & & & 24 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 2^2 & 2^3 & 2^4 \\ 1 & 3 & 3^2 & 3^3 & 3^4 \\ 1 & 4 & 4^2 & 4^3 & 4^4 \\ 1 & 5 & 5^2 & 5^3 & 5^4 \end{pmatrix}$$

従って右辺の行列 ( $n$  次の場合) の行列式は

$$(n-1)! (n-2)! \dots 2! 1! = 2^{n-2} 3^{n-3} \dots (n-1)!$$

となり、例 3 中の話 (交代符号行列の回報) とまた関係

係が出現しそいふ気がする。尚 (★★) は前述の  $P_k(n)$  と

$$(★★★) (n+1)^m = \sum_{j=0}^n \binom{n}{j} b_{m-j,j}$$

という形で関連している。ついでに (★) から出るもう一つのことは、 $n$

$$n^k - \binom{k}{1} (n-1)^k + \dots + (-1)^k \binom{k}{k} (n-k)^k = k! \quad [\text{終}]$$